



## #いたこ推し 水郷潮来あやめ園 Vol.6

咲いてないね

と言われた初夏

令和5年、6年。コロナ禍を越え、あやめまつりが本格的に開催を再開した矢先、水郷潮来あやめ園では花菖蒲が思うように咲かなくなりました。

来園者からは、「ぜんぜん咲いていないね」「いつが満開なの」そんな声をいただくことも少なくありませんでした。本来であれば彩られるはずの景色が広がらない。その現実には、現場は向き合うことになりました。

潮来を象徴する

あやめまつりは昭和27年ごろにビール瓶にあやめを飾り、その美しさを競い合ったことがはじまりとされています。その後、潮来を題材とした映画や歌がヒットしたことで、ピーク時には80万人以上が訪れるほどの潮来の観光名所となりました。

一方で近年、市内に



複数存在したあやめの栽培者は現在1名。農家は減り続ける中で、1.3ヘクタールの広大なあやめ園は市が管理し、年間の作業は4名の会計年度任用職員が行っています。守る人が限られる中で、この景色は支えられています。

あやめ(花菖蒲)

花菖蒲は全国で約5000種以上の品種が存在する日本の伝統的なお花です。しかし、近年では、管理に多くの手間がかかることや担い手の高齢化により、各地で花菖蒲園の維持が難しくなる事例が見られています。また、地球規模で問題となっている気候変動による

影響は、ここあやめ園も例外ではなく育成に影響が出るなど、これまでどおり花を咲かせることが、難しい状況も生まれています。

## 咲かせなければいけない

再び花を咲かせるため、これまでにあやめ園のあやめ栽培に関わっていたO Bの方々や、栽培農家だった方へ、あらためてご指導を求めるとともに、県外のあやめ園の視察や情報交換を重ねました。肥料や土づくりを見直し、植え方の工夫、水の管理、そして徹底した雑草除去。広い園を維持するための作業はどれも簡単ではありません。それでも一つ一つの積み重ねが景色を取り戻す唯一の方法でした。

## 咲くかどうかは、

### 最後までわからない

あやめの栽培において、株の老化と衰弱を防ぐ株分けは必須の作業です。

あやめ園は4つの区画に分けられ4年に1度エリア

ごとに植え替えを行っています。その作業は、あやめまつり終了後すぐに次の年への準備が猛暑の中はじまります。株分けが出来る株か選別し、丁寧に植え替えていきます。土の状態を確かめ、水の量を調整し、雑草を取り除く。同じ作業の繰り返しのように、毎年状況は異なり試行錯誤の連続です。

それでも手入れに終わりはありません。約11カ月にわたる作業を重ねても、結果がわかるのは花が咲くその時、思うように咲かない年もある。それでも、手をかけ続ける。目の前の園に向き合いながら時間を積み重ねていきます。

## 実を結び

令和7年。これまでの取り組みが実を結び、あやめ園には再び満開の花が広がりました。

あの「咲いていない」と言われた時期を越えて、ようやくたどり着いた景色でした。

## この景色とともに守る

広大なあやめ園を市だけで守り続けていくことは簡単ではありません。その中で支えとなっているのが、市民の皆さまの理解と協力です。あやめ園整備事業では、多くの方が参加し、草取りや環境整備に力を貸していただいています。

一つ一つの手入れが、この景色を支えています。あやめ園の花は、関わる全ての人の手で咲いています。満開の花の裏には多くの人の手と時間があります。そして、その積み重ねが、潮来の未来風景へとつないでいきます。今年も、皆さまのご来園を心よりお待ちしております。

